町人権教育研修会（9月16日）報告

漫画家　段（だん）　丹映子（たえこ）先生の講演より（抜粋）

演　題　「漫画で気づく　身近なジェンダー」

ジェンダーということを通して「男らしい、女らしい」ということが皆様にとって発想の転換のひとつになればいいなあと思いながらお話をさせていただきます。

生まれながらの男女の違いは性別。生まれた後に、私たちが親や周りの人たち、いろいろな環境を通じて身につけていく「男らしさ、女らしさ」というようなものがジェンダー。つくられたものだけに、国や時代、地域、文化等様々なものによって変化がみられるようです。時代の流れとともに変わっていく、それがジェンダーであると言えると思います。

「男らしさ、女らしさ」というものは、役に立つ良い面もあると思いますから、絶対に言ってはいけないということではありません。何がいけないかというと、その人、個人を見ないで「男だからこんなふうにしなさい」「女の子のくせにそういうのは変だよ」などと後ろにマイナスの言葉が付くと、自分自身も相手も傷つけるし、伸びようとしている芽を摘んでしまうことにもなりかねません。

「男らしさ、女らしさ」の社会通念がどのように私たちの生活の中に存在しているか、写真を見ていただきたいと思います。

男の子にお土産を買っていくとき皆さんはどちらを選びますか。9割の方がトラの方に手を挙げました。なぜトラが男の子で、ウサギが女の子ですか。トラの方が強い、ウサギの方が優しい、かわいらしいイメージ。色もウサギがピンク、トラがブルー。色にもジェンダーがあります。

トランスジェンダー（身体の性と心の性が一致しない方）の方とお話したことがあります。生まれた性は女性ですが、学校に行くときにスカートを穿（は）くのがすごく嫌で、登校途中にジャージに着替えて学校へ行っていたと言っていました。カミングアウトすれば誹謗中傷が降ってくるので、なかなかカミングアウトできないと苦しんでおられました。

©段丹映子「ちいさなジェンダー」
ほおずき書籍刊　無断転載禁止

◎諏訪湖博物館12月の休館日は、6・13・20・27・29・30・31日です。

生涯学習
No.570
かおり高い文化のまち
発行　下諏訪町教育委員会
編集　生涯学習編集委員会
〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
（下諏訪総合文化センター内）
☎　0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
メール syougai@town.shimosuwa.lg.jp

世間の評価

©段丹映子「ちいさなジェンダー」
ほおずき書籍刊　無断転載禁止

右の漫画は「世間の評価」。「女の子はいいけれど、男の子はボーッとしてちゃ困るよね。いずれ大黒柱になるんだものねえ」。これはあるとき喫茶店で近くの席から聞こえてきた会話です。男の人は強く賢くしっかりしていて、女の人は控えめで優しく守ってあげたくなるような存在。そういう「男らしさ、女らしさ」という規範が私たちの中にインプットされているとそれに反する行動を見たときに「なんだ、男のくせに」「なんだ女のくせに」という気持ちが生じてきます。

主婦の仕事は、だれもお金を払ってくれません。アンペイドワーク（無報酬労働）です。ごみ出しをやっていらっしゃる方いますよね。まとまったごみを集積所まで持っていくのをごみ出しと思い込んでいらっしゃる方もいますが、それはごみの運搬で、ごみ出しの手伝い。その分別は誰がやっていますか。男女共同参画ですから、家事を手伝うのではなく、主体的に行うことが共同参画になると思います。

テレビで「女が女の足を引っぱるのはやめましょう」と聞いたときに、そんな意識の低いこと、私はやっていないよと思ったんです。けれどかつて町内の役員をやっているときに町内運動会の慰労会で「役員のくせに漬物一つ持ってこないの？それじゃ男衆がかわいそうだよ」と耳にしました。また、実母と途中から同居をした私はこんなことを言われました。「年寄りの世話が大変？実の娘が贅沢言って。実の娘ならいいじゃない。お嫁さんじゃそうはいかないけどさ。自分の母親ですから、同居を認めてくれた旦那に感謝しなさい」って。「同居を認めてくれた奥さんに君は感謝すべきだぞ」って言われる男性の方はどれくらいいらっしゃるのでしょうか。

人に対する印象、感想、受け止め方は十人十色。それぞれが自分の受け止め方こそが正しいと思ってしまうことが危険です。ネットなどに載せたら削除できなくて広がってしまうこともあります。その意見の出どころはどこなのか、ちがう見方はないのかと確かめて、自分の意見を固めていくことが大切です。

最後に、天変地異、犯罪等々、心の休まらない日が続いています。こんな時代だからこそ相手の立場に立って「ありがとう」「助かったよ」そういう言葉が飛び交うことで、家庭も地域、職場も円満になります。感謝やねぎらいをちゃんと形に表すこと、それが人権を大切にすることになると思います。

南信教育事務所生涯学習課　唐澤秀司先生より長野県で大切にしている人権課題等についてお話しいただきました。

◇分野別施策（11分野）

①同和問題　②外国人　③女性　④子ども
⑤高齢者　⑥障がい者
⑦HIV感染者、ハンセン病元患者等
⑧犯罪被害者等　⑨中国帰国者等
⑩様々な人権課題（アイヌの人々、刑を終えて出所した人、LGBT等性的少数者他）
⑪インターネットによる人権被害

◇人権教育を推進するために大切にしたいこと

①「知ること」を大切に
・基本的人権とは
・平成28年に制定された3つの「個別的差別解消法」
・人権に関する最新の動向をつかむ
②「共に生きる心」を大切に
・当事者、専門家による講演
・グループ討議等自ら考える時間の確保
③「意欲と実践力」を大切に
・ロールプレイ（事例について対応を話し合う）
・ワークショップ（コミュニケーション技能）

◎下諏訪総合文化センター12月の休館日は、7・14・21・28・29・30・31日です。

平和な世の中をつくるために

～下中、社中の平和学習より～

例年下諏訪町では、町内の中学生の代表を被爆地である広島に派遣し、核兵器の恐ろしさを目で見、心で感じ、また、その経験を他の生徒たちと共有することで、平和について考えてきました。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、昨年度に続き、中学生の広島平和体験学習は実施を見合わせました。代わりに両中学校の3年生が教室で実施した平和学習の様子を紹介します。

1945年8月6日午前8時15分に広島に投下された原子爆弾の被害や被爆者の証言動画を視聴し、76年前の広島で何が起きたのか、どのような状況だったのかを学びました。また、現在世界にある核兵器などについて学び、広島や長崎で起きた悲劇を二度と起こさないために自分たちで何ができるかを考えました。動画の中には、ひどい火傷など目をそむけたくなるような映像もあり、先生が「見るのが苦しい生徒は、無理しなくていいです」と声をかけましたが、全員が、目を背けることなく真剣に視聴し、平和について考え合うことができました。

学習後の感想より

原爆が落ちたところからわずか300mのところにいた女性の証言から、原爆の被害の恐ろしさが伝わってきました。水がなく落ちてくる雨粒で喉を潤そうとする様子からは、当時の人たちの必死に生きようとする強い気持ちが感じられ、一番心に残りました。当時の様子を話していた女性は原爆の被害を受けた後、すぐに隣の女性の心配をしたけれど、隣の女性は、「自分は助からないかもしれないから先に逃げて」と言ったと聞いて、尊敬しました。私だったらここまでできないと思います。

自分が生まれる前にあったことですが、他人事ではないと思いました。76年前に日本で原爆が落とされ、たった10秒前まで笑顔で楽しんでいた何の罪もない大勢の方が亡くなられました。そんなことはあってはいけません。動画の中にもありましたが、原爆を落とす飛行機の乗組員の方は、「任務が成功して安心した」と言っていました。当時の世界の人々は本当に恐ろしいなと改めて思いました。ここまで安全な世界にしてくれた人に感謝していますが、全部の国が日本のように核を持っていないわけではありません。まだ、核実験をしている国もあります。私たちの時代でそんな世界は終わらせたいです。

◎下諏訪体育館12月の休館日は、7・14・21・28・29・30・31日です。

8月6日、9日に落とされた原爆。自分が生まれていなかったからといって絶対に原爆を見て見ぬふりをしてはならないし、他国が核弾頭を保有している事実に日本としてではなく、人として目を向けるべきだと思います。

「今、楽しいからそれでいい」、そうではないし、このようなことが起きたということを胸に刻んでいかなければならないと僕は考えます。落ちてからでは遅い。今の社会を確実に変えなければと思いました。

「戦争はいけない。原子爆弾は人を殺す怖いものだ」そんな漠然とした考えが私の今までの戦争のイメージでした。しかし、今回の平和学習を通して、戦争や原爆に対する考えが深まりました。原子爆弾は、大量のエネルギーを持っていて、そのエネルギーが原子をもこわしてしまうということを知ってとても驚きました。また、爆発したときの爆風で吹き飛ばされて亡くなった人がいたことや、建物が倒壊し、その下敷きになって亡くなった人がいたこと、放射線が人体の奥深くまで入り、深刻な障がいを引き起こすことなど、そんな爆弾があったなんて信じられない。二度とこんなことはやってはいけないと感じました。

平和な世の中を作っていくためには、世界の人々が分かり合えることが大切だと思います。そのためには、核兵器のことや原子爆弾が広島や長崎に落とされたことなどを自分たちが世界の人々へ伝えていくことができると思います。友だちや家族など身近にいる人から平和学習で学んだことを伝えていきたいと思いました。

全国から平和の折鶴が寄せられる「原爆の子の像」

平和への願いを込めて折鶴を捧げました

教育委員会では、原爆で亡くなった方々への慰霊と平和への願いを届けるために町内の小中学生が折った折鶴を広島平和記念公園内の「原爆の子の像」に捧げていただくために広島市へ送りました。

平和への願いと核兵器廃絶の願いを込めて丁寧に作った折鶴は、約1300羽集まりました。

町民の方からお手紙をいただきました

下諏訪社中学校御中

夏休み中の8月6日午前8時15分、広島の原爆記念日。慰霊の鐘が鳴り始め、今年も静かに黙祷を捧げようと窓の外を見ると、貴校の男子生徒が一人、空を見上げ脱帽し、ほんの一時ではありましたが、目をつぶり、黙祷をしておりました。その光景に感動し、涙があふれてきました。コロナ禍で皆が疲弊している中に、希望の光が見えた思いがし、そのことをお伝えしたく、お便りさせていただきました。

～一町民より～

◎下諏訪図書館12月の休館日は、3・6・13・20・27・29・30・31日です。

とがわ保育園

さかあがり
できたよ♪

うんていもがんばっています

身体を動かすことだいすき

めざせ。たいそうせんしゅ！

スイカ割りごっこ

カレー会

自分でトッピングを
しました♪

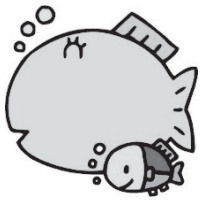
おみせやさん

「いらっしゃいませ」
「けんはいかがですか」

夏を楽しむ会

たかいまとに、あたるかな♪

「お水だ！
つめた〜い」



教育委員会からのお知らせ

町立図書館のお知らせコーナー

下諏訪町立図書館やまびこの会　会員が朗読録音奉仕者の表彰を受けました

公益財団法人鉄道弘済会は毎年朗読録音奉仕者の表彰を行っています。今年は視覚障がい者の方達のために音訳をしている遠藤ウタ子さんが朗読録音奉仕者に選ばれました。遠藤さんが読まれた作品は若竹千佐子著「おらおらでひとりいぐも」などです。やまびこの会では「クローズアップしもすわ」も音訳しています。

下諏訪町ホームページに掲載されている広報のページで聞くことができますのでぜひ聞いてみてください。また、録音図書をご利用になりたい方は下諏訪町立図書館までお問い合わせください。

■問い合わせ　下諏訪町立図書館　☎27−5555

令和4年 下諏訪町成人式のお知らせ

成人該当者：平成13年４月２日から平成14年４月１日までに生まれた人

◆期 日：令和４年１月９日（日）
◆受 付：午前11時30分～
◆開 式：正　午
◆会 場：下諏訪総合文化センター 大ホール

該当者（当町在住の方・親等が在住の方）には、出欠席の案内を11月中旬にお送りしました。必要事項をご記入の上ご返信ください。

新型コロナウイルスの感染状況によっては開催方法を変更する可能性があります。

■問い合わせ　下諏訪町教育委員会 生涯学習係
☎27−1111(内線718)

下諏訪町公民館特別講座

下諏訪みらい塾「みんなで考えるまちづくり」
全６回　午後３時から午後４時30分まで

◆第１回 12/26（日）（オンライン）
「『諏訪式。』－“来たり人„の目を、心を、開く」
講師：小倉美恵子さん（作家・プロデューサー）

◆第２回 1/16（日）
「あの時の下諏訪、あの時の私～デジタルアルバムで振り返る」
講師：井上喜久美さん（前図書館長）

◆第３回 2/6（日）
「あなたが下諏訪で暮らす理由を教えてください。これから下諏訪へ来る人のために。」
講師：宮本総子さん（クローバーデザイン代表取締役）

◆第４回 2/27（日）
「YOUは何しに下諏訪へ？～横浜生まれの私が下諏訪を選んだ理由～」
講師：滝口昂太さん（UMI COFFE&LAUNDRY経営）

◆第５回 3/6（日）（オンライン）
「まちづくり～これまでとこれから～」
第5・6回講師：上田幸夫さん（日本体育大学教授・日本公民館学会会長）

◆第６回 3/13（日）
「未来の下諏訪町（しあわせ）の話をしよう」

◆申込受付は12月1日より
右のQRコードから申請フォームに必要事項を記入、または、下諏訪町公民館☎28−0002へ
（1回ごとの参加可能です）

十二月のこえ

岡谷市からの交流職員として、４月から下諏訪町公民館に勤務をしている土屋聡美と申します。よろしくお願いいたします。

下諏訪町で思い出すことがあります。一年半ほど前の事です。

その頃、新型コロナウイルス感染症が全国に広がりをみせ、学校は一斉休校が続いていました。毎日を家で過ごす子どもが気がかりで、週末はひたすら諏訪湖の周りでハイキングやサイクリングをしていました。

その日も子どもとハイキングに出かけました。人が集まるのを防ぐため公園の遊具にテープが巻かれたO市を抜け、下諏訪町に入ったところ、なにやらたくさんの人が…。いつの間にか湖畔に現れた小山に、人が次々に登っては下っています。山があるなら登りたい。もちろん私たちもその小山に登り、不思議な満足感を覚えて家に帰ったのでした。

翌朝新聞を見ると、プレオープンで赤砂崎公園を町民に開放したんだとか。「こんなときだから外で密にならずに楽しんでほしい」との町のコメントです。おおらかだ…。

そんなおおらかな下諏訪町のみなさんに親切にしていただきながら、公民館で毎日楽しく過ごしております。

（土屋聡美）